

# 米沢有為会#文化大学

第35回 講演会 令和6年3月10日(日)

## 米沢における戦後英語教育の実践

～米沢英語研究懇話会の活動を通じて～

米沢有為会 文化広報部長 手塚 宮雄

### レジュメ 総目次

I 戦前の英語教育	VIII 東北六県英語教育研究大会・弁論大会
II 戦後の英語教育 学習指導要領の改訂	IX その後の学習指導要領の改訂
III 戦後の英語教科書	X 小学校の英語教育
IV 山形県英語教育研究会	XI その後の米沢英語研究懇話会
V 入学試験	XII 大学入学共通テスト
VI 米沢英語研究懇話会	XIII 日本英語検定協会試験
VII JETプログラム	XIV まとめ

## I 戦前の英語教育

### 1 米沢の英学(者)と英語教育

- (1) 興譲館洋学舎創立 明治4年(後に外国語学校)、英国人チャールズ・ヘンリー・ダラス (Charles Henry Dallas 1842-1494) を語学教師として招聘
- (2) 私立米沢中学校と改称 明治7年(後に現在の米沢興譲館高等学校)
- (3) 米沢英和女学校 明治18～28年

### 2 米沢中学校の英語授業の内容 (例) 『パーレーの万国史』

### 3 偉大な人物輩出 なぜ明治以降米沢から偉大な人物が輩出したのか

### 4 イザベラ・バード置賜盆地(米沢平野)を称賛

“an Asiatic Arcadia” (「アジアのアルカディア(東洋の桃源郷)」)

## II 戦後の英語教育 学校教育(学習指導要領改訂の変遷)

戦後文部省(2001年より文部科学省)は、教育刷新審議会(1952年より中央教育審議会)の答申を受けて、学校教育の要である学習指導要領を1947年から2016年までの約70年間に試案を含め9回改訂し、教育改革を推進してきた。これに基づいて全国の学校は教育課程を編成し、児童生徒の教育や特色ある学校づくりを進めた。

1947(昭和22)年 学習指導要領試案以後、1951((昭和26)年から2018年まで8回改訂した。

### Ⅲ 戦後の英語教科書

昭和22(1947)年より学習指導要領の改訂に伴って、文部省の検定教科書が採択された。

#### 1 中学校

*Let's Learn English* や *JACK AND BETTY* から始まって、その後各市区町村教育委員会に置いて、B5判(現在はA4判)にカラー写真や挿絵、付録の多い *NEW HORIZON*, *NEW CROWN*, *SUNSHINE*, *ONE WORLD*, *HERE WE GO*, *TOTAL ENGLISH* などが採択されている。

現在、米沢市立中学校では 1~3年 *NEW HORIZON English Course 1・2・3*(音声・映像教材付属 東京書籍)

#### 2 高等学校

高等学校でも指導要領改訂のたびに、下記のような新検定教科書が各校ごとに採択されたが、昭和時代の授業は「文法訳読法」が主流だったため、教科書はリーディングを重視して編集された。

初級英語・英語会話・英語A・B(昭和35年度~)

英語I・II(総合)及び IIA(聞く・話す)・IIB(読む)・IIC(書く)(昭和53年度~)

### Ⅳ 山形県英語教育研究会

戦後新制中学校・高等学校の発足を受けて、昭和23(1948)年に英語教育振興のために中学校・高校合同の研究会が発足した。

#### 1 組織

昭和23(1948)年発足。初代会長 上野伊栄太。以後、毎年県内各地で県英語教育研究会や英語弁論大会、中学生夏期英語講習会、英語力試しなどの事業が行われた。

昭和38(1963)年、山形県英語教育研究会の下で山形県中学校教育研究会英語研究部会と山形県高等学校教育研究会英語研究部会に分離。以後、中・高別に県英語教育研究会が開催された。

本部と支部 8支部 山形県英語教育研究会 本部

支部 村山地区 東南村山・西村山・北村山/置賜地区 東南置賜・西置賜/  
最上地区 最上/庄内地区 田川・飽海

以後、地区ごとに授業研究会や英語弁論大会、中学生夏期英語講習会、英語力試し等、実施。

#### 2 事業

会報発行 創刊号 『山形県英語教育会報』 昭和31(1956)年

会報第10号(昭和40年)より『山形県英語教育』と誌名変更

第11号(昭和41年)より会員全員に配布。現在第68号(令和5年)まで発行

山形県英語教育研究会(昭和22~28年)

山形県英語教育研究大会(昭和29年~39年)(第1~18回)。主に県立高校を会場に開催  
中学校・高校別に研究大会開催 昭和40(1965)年より

第1回県中学校英語教育研究大会 10月 蔵王一中

第1回県高等学校英語教育研究大会 10月 山形東高

それぞれ公開授業・研究発表・講演・を実施

## V 入学試験

### 1 県立高校入学試験

昭和29年度より、英語（選択科目）実施。昭和54年度より、ヒアリングテスト追加

#### ① 県立高校入学試験問題

（昭和60年度） ヒアリングテスト、スピーチ文と対話文から単語と語句の問題、長文読解問題（発音、英問英答、内容一致、something の内容選択、要約文選択、和文英訳）

#### ② 英語力だめし問題

（昭和53年度 3年用） 聞き取り問題、長文読解（英問英答、空欄補充、題名[日本語]、英文の区切り）、対話文総合問題（big news の説明、英文整序、内容一致選択）  
長文読解（内容一致選択、接続詞 that の用法、英文整序による要約、和文英訳）

### 2 大学入学試験

#### 1 期校・2 期校試験 国立大学 昭和24～53年(30年間)

戦後の新制大学でも、戦前からの英文和訳、和文英訳偏重の傾向が根強く残っていた。しかし、難問奇問を排し、熾烈な入試競争を緩和するため、高等学校における一般的かつ基礎的な学習の達成程度を問う良質な問題を合理的、客観的方法により選抜しようとして、共通一次試験が開発された。

#### 共通一次試験 国公立大学 昭和54～平成元年(11年間)

5教科7科目(1000点満点) マークシート方式解答（その後 二次試験あり）

問題内容：発音・アクセント・語彙・語法・文法・構文・英作文（語句整序）・不要文選択・英文読解(長文3問:内容一致)。時間:100分 総語数:2761語 1分間に27.6語  
二次試験では、長文読解・和訳・日本語による内容説明・英作文が求められた。

進学校教員の問題意識:どうすれば生徒の学力を向上させられるか、大学合格率を高められるか。

## VI 米沢英語研究懇話会

### 1 創設 昭和62(1987)年6月。以来、令和4(2022)年3月まで35年間活動。

創設者 松野良寅（当時 山形大学教養部教授）

### 2 創設の目的

- (1) 米沢市を中心とした置賜地区の中学生・高校生の英語学力の向上
- (2) 中学校・高校英語教員の研修と研究発表の場を提供すること（自己研鑽と資質向上）
- (3) 中学・高校・大学の英語教員の交流の場を広げること（英語教育のあり方に関する共通の意識と絆づくり）

### 3 英懇会員

米沢市・置賜地区の中学校・高校・大学の英語教員 44名 → 68名

賛助会員 米沢市内・置賜地区の協賛者 16名 合計 95名(1999年)

### 4 英懇顧問団（肩書は1987年当時）

松野会長は英懇創設当初から、大学（学会）から先輩や友人を顧問に招聘、指導・助言・交流を依頼した。

高梨 健吉（慶応義塾大学名誉教授 大妻女子大学教授）

速川 和男（立正大学教授 日本英学史学会会員→会長 日本ペンクラブ名誉会員）

勝浦 吉雄（立正大学教授 英米文化学会会長→顧問）

出来 成訓（神奈川大学教授 日本英語教育史学会会長）

長谷川 潔（横浜国立大学教授→関東学院大学大学院教授 日本英語教育史学会会員  
名和雄次郎（拓殖大学教授 日本英語教育史学会会員 英米文化学会会長）  
佐々木正彦（山形大学教授→名誉教授 2015年より顧問）

## 5 米沢英語研究懇話会 例会（第1～104回）

本会は1987年の創立以来、2022年の第104回（最終回）まで毎年例会を開催し、講演（話）や研究発表、座談会などを行ってきた。

第1回 1987年8月9日

講演 ① 勝浦吉雄「日本とマークトウェイン及び翻訳について」

② 出来成訓「本音の英語教育」

研究発表 ① 大木礼子（米沢一中）「中学校英語教育における『読むこと』の指導

② 本間和夫（米沢商業高）「Verbal Communicationの中に潜むnonverbal  
な一面について」

③ 松野良寅（山形大）「英語教師の研究対象について」

## 6 機関誌『ACORN』

例会をはじめ本会活動の記録を残すため、毎年機関誌『ACORN』を発行。創刊号は昭和63年2月。顧問や講師の特別寄稿、会員や賛助会員の研究やエッセイ・連載、中学校・高校の英語科紹介、新刊紹介、会員短信等を掲載し、最終号第35号（令和4年3月）まで継続。

### 創刊号 目次

巻頭言	会長 松野良寅
特別寄稿	一事が万事
	顧問 勝浦吉雄
	米沢英懇への期待
	顧問 出来成訓
	もし
	顧問 速川和男
	私の英語の思い出
	賛助会員 中條良悦
研究報告	VERBAL COMMUNICATIONの中にひそむ NONVERBAL な一面について
	..... 本間和夫（米沢商業高）
	中学校英語における Reading 指導
	..... 大木礼子（米沢一中）
	英文解釈泣きどころ
	..... 安部光司（米沢東高）
	高校英語教科書分析の試み
	..... 手塚宮雄（米沢興譲館高）
	英語教育雑感
	..... 松野良寅（山形大学）

## 7 英懇 主な例会の内容

本会は1987年の創立以来、2022年の第104回（最終回）まで毎年例会を開催し、講演（話）や研究発表、座談会などを行ってきた。学習指導要領の改訂や社会の変化を背景に、例会の内容も少しずつ変わってきたが、主な例会の内容を辿ることによって、米沢（置賜）における英語教育の足跡を振り返ることができる。その大部分は機関誌『ACORN』に掲載された。

- \* 講演 「教えることは学ぶこと」長谷川潔（横浜国大） 1988年 第4回
- \* 発表 Team Teaching について—AETの活用（興譲館高） 第7回
- \* 講演 「英語教材に見る題材の変遷」 青木庸效（神戸大学）  
日本英語教育史学会第6回全国大会 兼例会 1990年 第14回
- \* 発表 英語でコミュニケーションを図る基礎能力と積極的態度の育成（米沢三中）  
1991年 第20回
- \* 発表 第1回予備校テストから見た置賜地区中学生の英語学力の実態について（米沢予備校） 1992年 第23回
- \* 発表 英語読解力養成のための指導法について（米沢東高） 1993年 第26回

## VII JETプログラム(Japan Exchange Teacher Program)の導入

### 1 外国青年招致事業(自治省・外務省・文部省など)

1981(昭和56)年、Mombusho English Fellows(MEF)として山形県教育委員会が最初に受け入れたのはダニエル・カール氏(米国)。

1987(昭和62)年より、国際化の進展に伴い、国際交流と外国語教育の充実を図るため、国際交流員と外国語(英語)指導助手(Assistant English(Language)Teachers)の招致を開始した。山形県内にはAETが11名配置され、以後徐々に増員された。

1988年学習指導要領の改訂により、コミュニケーション重視の英語教育に方針転換。

### 2 英語教員研修

#### (1) 昭和63年度 英語教育指導者講座

中学校部会 9月13日～10月12日 高等学校部会 64年2月6日～3月7日

会場 国立教育会館 筑波文館

内容 コミュニケーション・プラクティス(聞く・話す)、LL 指導法・演習(聞く) 指導法演習(読む・授業の指導過程)、その他(テスト問題例)

#### (2) 海外研修 平成3年度 7月26日～9月19日

場所 イギリス エセックス大学 研修者 高校教員 23名

内容 大学研修(演習・講義・小論文提出)、ローリング・セミナー(英国内名所見学・演劇鑑賞など)

#### (3) 他の海外研修

平成2年度 英国 米沢東高校教諭 約6か月

平成2年度 米国 赤湯中学校教諭 約2か月

平成5年度 英国 興譲館高校教諭 約2か月

## VIII 第44回東北六県英語教育研究大会

平成6(1994)年10月6日(木) 米沢興譲館高校

大会テーマ:「コミュニケーション能力を育成する英語教育」

講演 演題 「異文化間コミュニケーション能力を育てる英語教育」

講師 松畑熙一氏(岡山大学教授)

公開授業 中学校3クラス・高校3クラス

分科会 中学校3・高校3

### 第42回東北六県中学校・高等学校英語弁論大会

平成6(1994)年10月7日(金) 米沢市民文化会館

講演 講師 ダニエル・カール(Daniel Kahl)氏(IDSインター・トレード株式会社社長)

演題 「国際交流の狭間で」

## IX その後の学習指導要領の改訂

1992年改訂後

\* 1996年度(平成8年度)米沢東高校に英米文化コース設置

2002年(平成14年)第6回改訂

「生きる力の育成」学校完全週5日制 中学校・高校共に必修科目へ

2011年(平成23年)第7回改訂

「生きる力の育成」の継承 中学校 週3時間 → 4時間可能に

小学校5・6年に「外国語活動」年35単位時間

高校に「コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」 英語で授業を原則とする

## 2017・18・19年(平成29・30・31年)第8回改訂

外国語活動の目標

2020年度より小学校3・4年生で実施。外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成すること。

外国語(英語)科の目標

2020年度より小学校5・6年生で実施。外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成すること。

2021年度より中学校、2022年度より高等学校で実施。外国語による聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くことの五つの領域別の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成すること。

その際、コミュニケーション能力は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等(主体的に学習に取り組む態度)」の3つの観点から定義される。

## X 小学校の英語教育

小学校3・4年生 外国語活動 年35単位時間 教材 *Let's Try!* 1・2(米沢市立小学校) ゲーム・歌・ペア活動など中心の英語に親しむ授業。「聞く」「話す」に重点 音声教材付属

小学校5・6年生 外国語(英語) 「1単位時間45分 年70単位時間 教材 *We Can!* 1・2 (米沢市立小学校)教科書:*NEW HORIZON Elementary English Course 5・6 + Picture Dictionary* (絵辞典)(東京書籍) 音声教材付属 英単語習得目標600~700語 読む」「書く」追加  
3つの観点により評価: ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

成績 評定3:十分満足できる 2:おおむね満足できる 1:努力を要する

### 川西町の先進的な小学校英語教育

- 1 委員: 小野庄士教育長、町立6小学校と1中学校の校長・教頭・英語専科教諭、ALT,ICT担当教諭など。
- 2 助言者: 山形大学地域教育文化学部 金子淳准教授
- 3 指導案を基に英語専科教諭とALTの授業実演動画制作・配信までの経緯
- 4 成果: ① モデル授業の動画視聴による指導法の理解  
② 教諭とALTのTeam Teachingに自信  
③ 教諭とALTの事前準備が短縮

## XI その後の米沢英語研究懇話会

第100回例会 兼 第58回米沢市PTA研究集会 **英語教育講演会**

講師 直山 木綿子 氏 (文部科学省 教科調査官)

演題 「新小学校学習指導要領における外国語教育のあり方

～移行期に取り組んで起きたこと～

日時 2018年11月17日(土) 14:45~16:30 会場 置賜総合文化センターホール

主催 米沢市PTA連合会・米沢英語研究懇話会 共催 米沢市教育委員会

## 市立米沢図書館に「英語多読コーナー」

令和元(2019)年度4月、岸順一館長が市立米沢図書館に「英語多読コーナー」を開設。

## 7月15日(土) 米沢英語研究懇話会 第102回例会 ナセBA **英語多読に関する講演会**

講師 西澤 一 氏 (国立豊田工業高等専門学校教授)

演題 「英語多読とは、継続可能な多読方法」 会員・市民40名参加

## **小学校の英語教育について公開講演会**

令和元年10月20日(日) 第103回例会 置賜総合文化センター

講師 金子 淳 氏 (山形大学地域教育文化学部 准教授)

演題 「小学校英語の教科化について」

## **米沢英語研究懇話会 第104回例会(最終回) 公開講演会**

- 1 日時 令和4年3月27日(日)午後2時00分～4時00分
- 2 場所 置賜総合文化センター 2階 201室
- 3 次第 (1) 開会のことば 青木 和人  
(2) 会長あいさつ 手塚 宮雄  
(3) 講師紹介 布川 裕行  
(4) 演題 「平成29・30・31年改訂学習指導要領に見る小・中・高等学校の英語教育」  
講師 鈴木 渉 氏 (宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授、PhD)  
(5) 質疑応答  
(6) 謝辞・閉会のことば 山田 善一

## XII 大学入学共通テスト

2021年度より、大学入試センター試験に代わって導入された。5教科30科目、解答はマークシート方式。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。

外国語(英語)は、リーディング(100点満点、80分)、リスニング(100点満点、(60分:実質30分)。2024年度リーディング:チラシ、案内文、レビュー記事、ブログ、学校新聞、記事とアンケート結果、物語文、説明文 総語数6292語

リスニング:短い発話、対話、長い対話、複数の対話、講義、2人の会話、長い会話・議論 総語数1575語、

## XIII 日本英語検定協会試験

設立 1963年 財団法人日本英語検定協会 赤尾好夫

2012年 公益財団法人日本英語検定協会

本部 東京都新宿区横寺町55

目的 「日常の社会生活に必要な**実用英語**の習得及び普及向上に資するため、**英語**の能力を判定し、また様々な機会を通じてその能力を養成することにより、生涯学習の振興に寄与することを目的とする。」

試験 実用英語技能検定試験:1級・2級・3級 その後追加:準1級・準2級・4級・5級

2025年度より準2級プラスが追加

回数 年間 第1回～第3回 各一次試験・二次試験

日程 二次試験でA日程・B日程(・C日程 米沢なし)

受験者 置賜地区内小学校・中学校・高等学校生、一般人 毎回200人前後受験

## XIV まとめ

- 1 戦前から戦後にかけての英学と英語教育  
明治時代以降、西洋諸国の文化を吸収し、日本の近代化へ、進取の気性
- 2 戦後、文部（科学）省主導の下、英語教育の推進  
学習指導要領の改訂と英語教科書の採択、教員研修
- 3 山形県英語教育研究会の発展  
県内各地での授業研究と実践、事業活動の推進
- 4 米沢英語研究懇話会の活動  
米沢・置賜地区の英語教員の研究と実践、交流と協力
- 5 これからの外国語（英語）教育  
一層の異文化交流と日本人の活躍、日本人らしさ

以 上

※ ご案内 ※

- ・ プリントアウトしてお手元にご準備ください
- ・ 当日は、このレジュメをもとに作成したパワーポイント (PPT) 画面に依りながら講演があります。
- ・ 当日の Zoom 講演画像は録画して、後日、インターネット上 YouTube でご覧いただけます。  
(米沢有為会#文化大学 事務局)